

こどもまんなか  
こども家庭庁

※こども家庭庁は令和5年4月1日の設立です。

モデル事業実施結果の整理・分析  
（個別に出向いて意見を聴く取組、  
内閣府ユース・ラウンド・テーブルについて）

2023年2月3日

内閣官房こども家庭庁設立準備室

# 01

## 実施概要

- 1 個別に出向いて意見を聴く取組について
  - 1-1 不登校のこども
  - 1-2 児童養護施設で生活するこども
  - 1-3 児童相談所一時保護所で生活するこども
  - 1-4 困難を抱える若者
  - 1-5 児童館を利用するこども
  
- 2 内閣府ユース・ラウンド・テーブルについて

# こどもの政策決定過程におけるこどもの意見反映プロセスの在り方に関する調査研究 本調査研究におけるモデル事業について〈全体像〉

目的：以下の2つの観点から、国の政策へのこども・若者の意見反映に関する仕組みづくりに活かす。

- ①様々な手法で行うことにより、意見聴取の手法等に関する課題を抽出する。
- ②「どのような仕組み／環境があれば、国の政策に対して意見が言いやすいか」をテーマとすることにより、国の政策への意見反映に関して、モデル事業に参加するこども・若者から意見を聴く。

## 広く公募し、こども・若者から意見を聴く

### 対面

小学4年～概ね20代

### オンライン

小学4年～概ね20代

### チャット

中学1年～概ね20代

### Webアンケート

小学4年～概ね20代

※全てのこども・若者を対象に、内閣官房HPにて広く公募。

※様々なルートで周知し、様々な状況にあるこども・若者の参加を呼びかける予定。

※上記学年は、こどもにとって分かりやすいよう表示するものであり、通学しているかどうかは問わない。

※別途実施する内閣府ユース政策モニターからの意見聴取の内容も共有。

## 個別に出向いて こども・若者から意見を聴く

本資料での報告内容

- ・不登校のこども
- ・児童養護施設で生活するこども
- ・児童相談所一時保護所で生活するこども
- ・困難を抱える若者

※意見聴取の方法：対面又はオンライン

※関係省庁や関係有識者等の協力を得て実施。

## 有識者等からのヒアリング

○時間的・技術的制約から、本調査研究においては関係者からのヒアリング等を実施。

※乳幼児について、「就学前のこどもの育ちに係る基本的な指針」に関する有識者懇談会における議論等を共有。

※医療的ケア児等について、関係有識者等からのヒアリング等を実施。

## 【個別に出向いて意見を聴く】モデル事業の実施概要

---

### ▶ 実施の目的：

多様な子ども・若者の意見を聴取することを目的に、困難を抱えているなど、公募のみでは声を聴きづらいと考えられる子ども・若者の意見を聴取するため、内閣官房職員が個別に出向き、ヒアリング等を行った。

### ▶ 対象者：

情報取得の困難や自主的に意見表明の場に参加することへの困難や抵抗に配慮し、今回のモデル事業では、不登校の子ども、児童養護施設で生活する子ども、児童相談所一時保護所で生活する子ども、困難を抱える若者を対象とした。

また、第2回検討委員会にて挙げた「<公募>と<出向いて意見を聴く>により、意欲的に意見を言いたい子どもと声をあげにくい子どもの声はある程度反映できそうであるが、その間にいる、政策に対して意見を言うことに特段興味・関心がない多くの子どもの意見が把握されにくいのではないか。児童館や放課後児童クラブ等、日常から多くの子どもが過ごしている子どもの居場所でヒアリングを行うことができないか。」という意見を踏まえ、児童館を利用する子どもへのヒアリングも実施した。

※参考：第2回検討委員会議事要旨

[https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ikenhanei\\_process/dai2/gijiyousi.pdf](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/ikenhanei_process/dai2/gijiyousi.pdf)

### ▶ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・子どもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

# 【個別に出向いて意見を聴く】モデル事業の実施概要

## ➤ 作成・使用した子ども向け資料（一例、一部抜粋）：

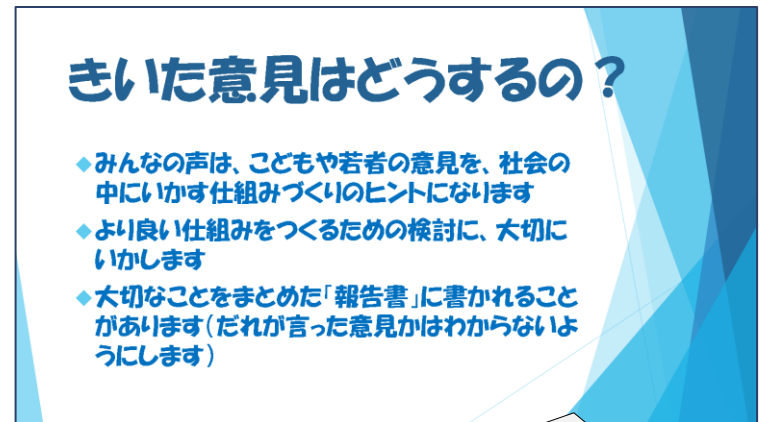
対象者の参加動機の向上や意見表明に際しての安心の確保を目的に、実施の目的や概要を分かりやすく記載したポスターや資料を作成し、ヒアリング対象施設への事前送付やヒアリング当日の事前説明等に活用した。



施設等に事前送付・  
掲示依頼したポスター



※事前の準備は必要ありません！  
ふだんの気持ちを聴かせてもらえるとうれしいです。



施設職員による事前説明や  
内閣官房職員による当日の説明に  
活用した資料

# 01

## 実施結果

- 1 個別に出向いて意見を聴く取組について
  - 1-1 不登校のこども
  - 1-2 児童養護施設で生活するこども
  - 1-3 児童相談所一時保護所で生活するこども
  - 1-4 困難を抱える若者
  - 1-5 児童館を利用するこども
  
- 2 内閣府ユース・ラウンド・テーブルについて

# 【不登校のこども】モデル事業の実施概要

---

## ➤ 実施方法：

グループインタビュー（施設職員が進行）

## ➤ 対象者／人数：

- ・小学生世代14名（3グループ）
- ・中高生世代13名（3グループ）

## ➤ 実施場所：

関東近郊のフリースクール（文部科学省の推薦施設）

## ➤ 実施日時：

2022年11月18日（金） 12:15～15:30

## ➤ 場づくりの工夫や配慮：

- ・全体の進行、各グループのファシリテーター（グループごとに1名）いずれも日頃からこどもたちに関わっている施設職員が担当。
- ・内閣官房職員は、各グループでメモ取りや適宜ファシリテーターの補助（カジュアルな服装）。
- ・おやつや飲み物を用意し、参加しやすく話しやすい場づくり。

## ➤ 公表内容の確認方法：

本報告書に記載するこどもたちの意見は、施設を通じて参加したこどもたちに確認・了解を得た。

# 【不登校のこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

伝えやすい 場や状況	小学生 世代	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ コンクールで入賞したとき、「話す場」だったから言えた</li><li>✓ この場（＝フリースクールのミーティング）</li><li>✓ 普段から会っている相手</li><li>✓ 相手の顔が見える場</li><li>✓ 知らない人でも話せる</li><li>✓ やさしい言葉や雰囲気がある</li><li>✓ 指摘や注意なら言いやすい</li></ul>
	中高生 世代	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 相手との関係性について。例：ちょうど良い距離感（自分が話したいときに話せる）、「仲の良い先輩」のような大人、信頼できる人の代弁</li><li>✓ 話すための場が用意されている</li><li>✓ 受容的な雰囲気</li><li>✓ このフリースクールはこうあるべきという決めつけがなく、自由に意見を言いやすい</li><li>✓ 中立的なまとめ役やファシリテーターがいる</li><li>✓ 少数意見も聴いてくれる</li><li>✓ 匿名性について：SNSやフォームは伝えやすい</li><li>✓ 対面：文章を書くのが苦手な場合は対面の方が良い。相手の顔が見える方が良い</li><li>✓ 自分にとって大事なテーマなら言う （フリースクールのルールなど、実際にこどもの意見が通った例が複数）</li></ul>



# 【不登校のこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

### 伝えにくい 場や状況

#### 小学生 世代

- ✓ 相手の反応が不安。例：間違いの指摘、反対意見、悪口
- ✓ 初対面の人、年上の人是不安
- ✓ きちんと受けとめてもらえないとき、反映や協力が期待できないとき
- ✓ 否定的な反応や雰囲気。言われたくないことを言われたとき
- ✓ 対等ではない相手。例：大人と1対1、差別がある、人によって態度を変える相手
- ✓ 大勢の前で発言するとき
- ✓ 学校では言いにくい、黙っていた

#### 中高生 世代

- ✓ 否定的・断定的な雰囲気・反応。例：多数決、自分だけ違う意見、相手が他の人の味方、固定観念や決めつけがある
- ✓ 理解のない場・人。例：仲良くない子からの「学校に来いよ」、代弁者が自分の思いと違う解釈、共感のない説教、話の途中で遮られる
- ✓ 参加や発言の強要、義務
- ✓ 伝えた内容が先生や親などに知られるのは嫌
- ✓ 相手の分からない電話やLINE
- ✓ 対面
- ✓ 匿名性について：SNSやフォームは誰が見ているか分からない不安や恐怖もある
- ✓ 伝えたことで過度な心配をされる可能性。例：いじめ調査でいじめがあるとは回答しにくい
- ✓ 周囲の視線を浴びるのが嫌
- ✓ 自分の内面を知られるのは恥ずかしい
- ✓ 意見を勘違いされて受け止められたとき、受け止めがあるから違うと言いたい

# 【不登校のこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

意見を伝えやすい  
仕組みやツール、環  
境

中高生  
世代

- ✓ こども家庭庁がこどもの意見を聴くには、知名度、信頼、やりやすさ（伝えやすさ）が必要
- ✓ 聴く手段は結構あるはず。伝える工夫をすべき。YouTube広告やツイッター広告など
- ✓ 学校の先生から案内すれば多くの人に届くが、自分たちのような学校に行っていない人には届かないというのは良くない
- ✓ 学校に行っていない人の意見もどうやって聴くのか考えるべき。例：コンビニからフォームを送信できるなど
- ✓ こども家庭庁のことを知ってもらわないと、意見は集まらない→学校での説明などが必要
- ✓ 仕組みを作っても、必要な人に届かなければ意味がない。皆が知っていることが大事
- ✓ 親の影響が強い年少のこどもたちは、声をあげにくい。声を聴く方法が必要
- ✓ いつでも思い立ったら言える方法：メール、LINE、電話、ツールは何でも良い
- ✓ 言ったことがちゃんと受け止められる仕組み。例：集まった意見の公表
- ✓ 国民の意見が反映されていないのに、こどもの意見が反映されるのか？ 不信感がある
- ✓ 社会のルールではなく、自分たちのルールを自分たちで考えたい
- ✓ 大人が決める文化を変える

# 【不登校のこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

その他の 意見、思い	小学生 世代	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 言う／話し合うより自分でやった方が早い、自分で何とかできると言う必要が感じられない</li><li>✓ 小さいときには言えていたことが言えなくなってくる</li><li>✓ 大人が聴きたいこととこどもが話したいことは違う</li></ul>
	中高生 世代	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 選挙や政治について。例：関心はあるが専門用語ばかりで分かりにくいし情報を詰め込みすぎ、こども向け選挙公報のようなものがあると良い、こどもは政治のことに口出すなと思われていそう、こどもだって言いたいことがある、こどもが分かるようにしてほしい</li><li>✓ 板書の配信など、オンラインで授業を受けられると良い。国からこどもに寄り添った働きかけをしてほしい</li><li>✓ 交通機関利用の学割証発行には生徒手帳が必要だが、自分は持っていない。制服の写真が必要と言われたが、着たくない。なぜ私服ではダメなのか →まさに国の政策に関係すること。こども家庭庁が国土交通省に伝えて受け止めてもらうべき</li><li>✓ 決めつけないでほしい。例：髪型で性別を判断され嫌な思いをしたことがある、学校でいじめを隠そうとされたことがある（先生からお前も悪いはず、冷静になれと言われた。明らかに中立ではないし、校長先生もピンと来ていないようだった）</li></ul>

# 01

## 実施結果

- 1 個別に出向いて意見を聴く取組について
  - 1-1 不登校のこども
  - 1-2 児童養護施設で生活するこども
  - 1-3 児童相談所一時保護所で生活するこども
  - 1-4 困難を抱える若者
  - 1-5 児童館を利用するこども
  
- 2 内閣府ユース・ラウンド・テーブルについて

# 【児童養護施設で生活するこども】モデル事業の実施概要

---

## ➤ 実施方法：

グループインタビュー（こども家庭庁設立準備室政策参与、同室職員が進行）

## ➤ 対象者／人数：

- ・高校生世代3名（1グループ）
- ・小学生 7名（2グループ）

## ➤ 実施場所：

関東近郊の児童養護施設

## ➤ 実施日時：

2022年10月23日（日）10:00～15:00

## ➤ 場づくりの工夫や配慮：

- ・ファシリテーターは、社会的養護のこどもに関する知見のある内閣官房職員および政策参与が担当。他2名の内閣官房職員がメモ取り、適宜ファシリテーターの補助（カジュアルな服装）。
- ・インタビュー、記録内容説明時いずれも施設職員の参加、傍聴はない形で実施。施設への共有は参加者の了承を得た公表内容のみ。
- ・おやつや飲み物の用意、参加者の名札着用、カードを使ったアイスブレイクなど、こどもが話しやすくなるための工夫。

## ➤ 公表内容の確認方法：

12月下旬に内閣官房職員および政策参与が再訪し、こどもたちに本報告書に記載予定の内容を説明。こどもたちによる修正、削除等を経て公表内容を確定後、施設と共有した。

# 【児童養護施設で生活するこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ :

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

気持ちを伝える  
ことについて

小学生

- ✓ 人の気持ちが分かる人に聴いてもらいたい
- ✓ 優しい人、知らない人よりも知っている人の方が言いやすい
- ✓ 大人にもっと話を聴いてもらいたい。してほしいことを伝えても、「あとで」と言われて結局してもらえないことがあった
- ✓ 自分から要望は言いづらいので大人から質問してくれると良い
- ✓ 自分の希望がどうしてダメなのか教えてほしいし、「いいよ」と言ってほしい
- ✓ 大人は納得しなくて良いので助けてほしいが、思っていることは言えない
- ✓ 先生に意見を言っても怒られるだけだと思う
- ✓ 勇気が出なくて言えず、言いたいことを我慢している
- ✓ 職員と一緒に話そうと部屋に来てくれたり散歩に誘ってくれたりすると言いやすい
- ✓ 職員はいつもピリピリしていてどう伝えたらいいか分からず困っている
- ✓ けんかをしているときや怒られるときは難しいので、落ち着いたら話を聴いてほしい
- ✓ 周りのこどもにも、職員にも、思ったことを言いづらい
- ✓ 気持ちや考えを自由に言いたい、否定や反論をされるとそれ以上言えない
- ✓ 施設に意見箱は設置されているが、用紙がない

# 【児童養護施設で生活するこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

気持ちを伝える  
ことについて

高校生  
世代

- ✓ 学校では、施設の話は言えない
- ✓ 意見を伝えても何も変わらないと思う。話を聴きに来る人がいたり、意見のアンケートに答えたりしたことがあるが、何も変わらず、意味ないと思った
- ✓ 施設を出たくて里親を探してほしいと言ったが、「もう高校生だから見つからない」と言われ、探してもらえなかった
- ✓ 本当の気持ちを職員に気付いてもらえない、理解してもらえないと思う。施設での生活で傷ついているが、言えないので我慢している。でもストレスが溜まって爆発してしまう。言葉で伝わらないから行動で伝えているのに、問題行動だから、理解されない
- ✓ 施設の小さい子たちは言葉で伝えるのが難しいから、年長の自分たちが言わないといけな  
いと思っている。でも声をあげても大人がその意味を理解しない。変えてほしいのではなく、  
分かってほしい
- ✓ 行動に移してもらったことがある。学校でのいじめを隠していたが、親は怒らずに聴いてくれ、  
校長に土下座して我が子を助けてと訴えてくれた
- ✓ 吐き出せる場所はネットだけ。ネットなら顔を出さずに言える
- ✓ 信用してほしい、秘密を守ってほしい。信頼していた一人の職員にだけ話したことを職員も  
学校の先生も皆知っていて、怒られたことがある。秘密を守らないならもう話さない
- ✓ 職員は余裕がなくピリピリしており、十分に話を聴いてもらえていない
- ✓ いつか分かってもらえると思うから、声をあげ続ける

# 【児童養護施設で生活することも】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

生活についての  
意見、思い

小学生

- ✓ <遊びについて>
  - ・ 遊び場：もっと外遊びがしたい、中庭付近は窓が多く危険という理由でボール遊びが禁止されている、もっと広い場所で遊びたい
  - ・ 学校で、遊びが多数決で決まることもある。自分がしたい遊びができないと残念な思いになるので、やりたい遊びごとに分かれて遊べると良い
- ✓ <学校について>
  - ・ 学校に行く日を自分で選びたい。授業がオンラインだと良い
- ✓ <施設生活について>
  - ・ 行き先を伝える必要はあるが、職員の許可がなくても一人で外出できようにしてほしい
  - ・ 買い物などは職員の同行や事前の計画作成が必要。計画を立てても約束があいまいで、実現しないこともある
  - ・ インターネットやゲームの利用に制限がある。もっと自由に使えるようにしてほしい
  - ・ 食事の時間が遅れてゲームで遊べる時間が短くなるのが嫌
  - ・ 自分のゲームを持っていない人は持っている人がうらやましくなる。ユニットで買えると良い
  - ・ 一人で静かに勉強できる環境が欲しい
  - ・ こども同士の関係：けんかをして施設を出たくなることがある、すぐ告げ口する人がいて嫌
  - ・ 職員との関係：ストレスがある、学校の宿題の音読を満足に聴いてもらえていない
  - ・ 将来は一人暮らしがしたい
  - ・ 親が病気なのは知っているが、それでどうして自分が施設で生活するのか、理由を知りたい
  - ・ 里親の家に泊まりに行っておいしいものを食べたりしている子がうらやましい



# 【児童養護施設で生活することも】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えるににくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

生活についての  
意見、思い

高校生  
世代

- ✓ <施設のルールについて>
  - ・ 大人が決めたたくさんの細かくて厳しいルールがある。こどもの意見は入っていない
  - ・ スマートフォン 例：アルバイトによる一定額貯金など様々な条件をクリアしないと購入できない。持てたとしても使用時間、Wi-Fi接続、アプリのダウンロード、SNS投稿など制約や不自由が多く持とうと思えない。友人との連絡は学校支給のPCで行っている
  - ・ 外出 例：休日外出に計画書作成が必要。自由に外出したい。遠方開催のオープンキャンパスに行きたかったが新型コロナの自費検査が必要等の制約で許可されなかった
  - ・ 門限 例：門限自体嫌だが、門限を破ると外出禁止などのペナルティ。条例ではこどもが外出できないのは22時以降のはずなのでおかしい
  - ・ 小遣い 例：金額が少ない。自立の練習のため生活の消耗品はお小遣いから購入しなければならず、節約してもすぐお金がなくなる
- ✓ <学校、進学について>
  - ・ 登校日を自分で選びたい。行きたくない日も無理やり連れて行かされるのはつらい。外に閉め出されたこともある。
  - ・ 学校が嫌な理由は勉強、人間関係、校則など様々。入学前の話やイメージと全然違う
  - ・ 学校行事で職員に保護者と名乗られるのは嫌だった
  - ・ 行きたい大学、学部があるが、経済的に難しいので進学は諦めて就職せざるを得ない。支援や自分が希望する給付型奨学金は行きたい大学では対象外のようなだった
  - ・ 親を頼れないので働きながら学べる通信の専門学校に進学希望だが、周囲の大人からは頭ごなしに否定されるので相談していない
  - ・ 特別支援学校に通っており、周りに進学する人がいない。大学進学は諦めている
  - ・ 特別支援学校で、実習先は障害程度優先で決められる。希望を伝えても叶わない

# 【児童養護施設で生活するこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

意見を伝えやすい 仕組みや環境	高校生 世代	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 初対面の人、第三者の方がフラットに聴いてくれると思う。自分たちの意見を聴いて、児童養護施設のことを知ってくれる大人が増えると良い。</li><li>✓ 小学生など小さい子たちが話す上では、中高生が同席するなどの配慮が必要では</li><li>✓ こちらに来て聴いてもらいたい。その際、職員はいない方が話しやすい</li></ul>
こども家庭庁に 伝えたいこと	高校生 世代	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ こどもを一人でも多く救ってほしい</li><li>✓ 施設のこどもだけでなく、家にいる子でも声をあげられない子はあると思う</li><li>✓ 大人になるまでに社会が変わってくれたら、自分もこどもを産みやすくなる</li><li>✓ 自分がつらい思いをしてきた分、他の子たちのためになりたい。将来は自分が稼いで他の子たちを支援したい</li></ul>

# 01

## 実施結果

- 1 個別に出向いて意見を聴く取組について
  - 1-1 不登校のこども
  - 1-2 児童養護施設で生活するこども
  - 1-3 児童相談所一時保護所で生活するこども
  - 1-4 困難を抱える若者
  - 1-5 児童館を利用するこども
  
- 2 内閣府ユース・ラウンド・テーブルについて

## 【児童相談所一時保護所で生活するこども】モデル事業の実施概要

---

### ➤ 実施方法：

個別ヒアリング（こども家庭庁設立準備室政策参与、同室アドバイザーが進行）

### ➤ 対象者／人数：

- ・小中学生 6名（小4～中3） ※後に発言の公開を希望しないとの意思表示をした者1名を含む。
- ・幼児 2名（4歳）

### ➤ 実施場所：

関東近郊の児童相談所一時保護所

### ➤ 実施日時：

2022年12月2日（金）15:30～17:30

### ➤ 場づくりの工夫や配慮：

- ・ファシリテーターは、一時保護下のこどもに関する知見のある内閣官房政策参与およびアドバイザーが担当。他2名の内閣官房職員がメモ取り、適宜ファシリテーターの補助。
- ・インタビュー、記録内容説明時いずれも施設職員の参加、傍聴はない形で実施。施設への共有は参加者の了承を得た公表内容のみ。
- ・内閣官房職員は名札を着用、カジュアルな服装。
- ・幼児にはおもちゃや遊びでアイスブレイク。

### ➤ 公表内容の確認方法：

1月初旬～中旬にかけて、内閣官房アドバイザーが再訪し、こどもたちに個別に本報告書に記載予定内容を説明。こどもたちによる修正、削除等を経て公表内容を確定後、施設と共有した。

# 【児童相談所一時保護所で生活するこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えるににくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

気持ちを伝える  
ことについて

小中学生

- ✓ <言えているかどうか／その理由など>
  - ・ 言えない。人を傷つけてしまうから。過去に人を傷つけて仲間外れにされた経験があり、それから伝えられなくなった。ふだん伝えたいことがあっても我慢している
  - ・ 周りのこどもはもっと言えていると思う。理由は分からない。他の人は言えているのに、自分は言えないというのは苦しい
  - ・ 思ったことは言える性格。言ってどうにかなるものでもないが
  - ・ 言っても変わらないかもしれないけど、言い続ける
  - ・ 言って必ずしもうまくいくわけでもない。うまくいかないから言いづらくなるのだと思う
  - ・ 今日は言いたいことがあって来た
- ✓ <どんな人・どういうときに言いやすい／言いにくいか>
  - ・ 誰に対しても言いにくい。以前言えていた幼馴染の子も今は敵になってしまった
  - ・ 自分の話ばかりしてくる人、自分が正しいと押し付けてくる人には言いづらい。同世代、学校の人とか
  - ・ 若い人、年齢が近い人だと分かり合える。こどもに相談する。こどもと大人は違う
  - ・ 大人には言わず、我慢している。自分が話したことを勝手にバラされたら嫌だし怖い
  - ・ 人と比べてくる大人には言いづらい。
  - ・ 「言いやすくなる」ことはない。自分の中に溜めておく。
  - ・ （気持ちを伝えられるほどの）信頼を構築するには、交流を深めていくしかないと思う。ちゃんと会って話すのが大事

# 【児童相談所一時保護所で生活するこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

意見を伝えやすい 仕組みやツール、環 境	小中学生	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ &lt;ほしい仕組み&gt;<ul style="list-style-type: none"><li>・（首をかしげながら）「〇〇さんと比べて…」と言わなければいい。人と比べられるのは嫌</li><li>・手紙を書いて直接こども家庭庁に届くといい。ヒアリングは面倒と言う子も、手紙なら伝えやすいと思う</li><li>・投書箱や第三者委員の制度があったとしても言いにくい</li><li>・特にない</li></ul></li><li>✓ &lt;仕組みについて思うこと&gt;<ul style="list-style-type: none"><li>・制度や仕組みについては、みんなが知っていることが大事だと思う</li><li>・もし自分が気持ちを言えるなら、言う機会を使って言いたい</li><li>・思っていることは、誰かを通じて伝えるのではなく、本人が直接言う方が良い</li></ul></li></ul>
その他の 意見、思い	小中学生	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 自分一人では社会は成り立たないし、みんなが幸せに過ごせるようにすることは大事</li><li>✓ 自治体の予算を増やしてほしい。保護所だけではなく、児童館など自治体全体で、こどもの予算を増やして、こどもが使う遊具やおもちゃを頑丈なものにしてほしい</li><li>✓ 話をしないときにはマスクをしないでいいということにしてほしい。みんなは家ではマスクをしないが、施設の子はマスクをしている時間が長い。息苦しくなるし、ずっとつけているのはつらい</li><li>✓ 太陽の光を浴びたい。ここではずっと屋内にいて、外が寒いかわるいかわからない</li><li>✓ とにかくご飯がまずい。もっとうまいものを食べせろ！</li><li>✓ 部屋を広くしてほしい。一人で寝るのは寂しいから2人部屋とかにしてほしい</li><li>✓ ここではみんなと過ごしたいのに、自分だけずっと一人で過ごしている。その理由を隠さないで説明してほしい</li></ul>

# 【児童相談所一時保護所で生活するこども】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えるににくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

その他の 意見、思い	小中学生	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ ここにいる大半の子は寂しいと思う。一緒にいた方が、心も開くのでは？ 寄り添ってほしい。つらい思いをした子を一人にしない方が良い</li><li>✓ 慕っている職員ともっと話したい、好きな服装をしたい、もっと遊びたい、ゆっくり休みたい</li><li>✓ 今日話しに来た理由は「ノリ」</li><li>✓ ここにいると時間が経つのが早い。時間が経つのは嫌だ、おとなになるから</li><li>✓ ここに来たことについて、傷つくことを言われた。自分に言うのはまだしも、他の子にも言っているとしたら</li><li>✓ ここは強制されることが多いが、保護所にいることには納得している。自分で行きたいと言った。初めてではないし、ここに来ることは嫌ではなかった。勉強もやりやすい</li></ul>
幼児への ヒアリング	幼児	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 1人目：職員のそばを離れず、職員にしがみついた状態で受け答え。楽しかったことについて、公園の遊具で遊んだことなどを話してくれた。嫌な気持ちになることを尋ねたところ、「だいじょうぶ」との返答。その他の質問には「わからない」「だいじょうぶ」の返事で、名前の開示はなかった。</li><li>✓ 2人目：当初は職員に抱かれた状態で、断片的に好きなことやしたい遊び、ママに会いたいことなどを教えてくれた。名前の開示なかった。その後、しばらくの間聴き手とボールで遊ぶなかで、名字や年齢、どこから来たかなど、自身に関する情報が徐々に出てきた。</li></ul>

# 01

## 実施結果

- 1 個別に出向いて意見を聴く取組について
  - 1-1 不登校のこども
  - 1-2 児童養護施設で生活するこども
  - 1-3 児童相談所一時保護所で生活するこども
  - 1-4 困難を抱える若者
  - 1-5 児童館を利用するこども
  
- 2 内閣府ユース・ラウンド・テーブルについて



# 【困難を抱える若者】モデル事業の実施概要

---

➤ **実施方法：**

グループインタビュー（菊池真梨香委員が進行）

➤ **対象者／人数：**

社会的養護を経験した若者、親元から避難した若者（18～21歳）／4名

➤ **実施場所：**

関東近郊

➤ **実施日時：**

2022年9月27日（水） 14:15～17:30

➤ **場づくりの工夫や配慮：**

- ・ファシリテーターは、社会的養護を巣立った若者の支援やアドボカシーに携わる菊池真梨香委員が担当。
- ・内閣官房職員は、各グループでメモ取りや適宜ファシリテーターの補助（カジュアルな服装）。
- ・おやつや飲み物を用意し、参加しやすく話しやすい場づくり。
- ・冒頭の実施趣旨の説明で、言いたくないことは言わなくて良いことも明確に伝えた。
- ・自己紹介時、好きな動物を紹介するなどのアイスブレイク。
- ・付箋や模造紙を活用し、意見の整理や共有に役立てた。

# 【困難を抱える若者】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

これまでの経験や 困りごと	これまでの 経験	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 幼い頃から親からの虐待（身体的暴力や暴言）</li><li>✓ 児童養護施設、自立援助ホームを利用した</li><li>✓ 児童相談所が関わらず18歳を過ぎてから家を出た</li><li>✓ 家出をしてから居所が定まらず転々としてきた</li><li>✓ 支援団体の支援を利用しながらホテル住まいをした など</li></ul>
	保護前の 困りごと	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ &lt;親に関すること&gt;<ul style="list-style-type: none"><li>・ 逃げるのが親にバレたらもっとひどいことをされるという不安</li><li>・ 親に居場所を探られないかという不安</li><li>・ 高校卒業のためには家から通学するしかなく、現状に耐えるしかなかった</li></ul></li><li>✓ &lt;相談先に関して&gt;<ul style="list-style-type: none"><li>・ 気軽に相談できる大人がいなかった</li><li>・ 公的な制度が助けてくれず、自分で民間団体を探すのが大変だった（怪しい団体ではないかなども判断が難しかった）</li></ul></li><li>✓ &lt;家を出ることについて&gt;<ul style="list-style-type: none"><li>・ 家を出たとしてもその後一人で暮らすための資金がなかった</li><li>・ 転入・転出に必要な手続きについての知識がなかった</li><li>・ 全く知らない土地に逃げてきて、分からないことだらけ。道も分からない</li><li>・ 安全を確保する方法が欲しかった</li><li>・ 職場を探すにもどうしたら良いか分からなかった</li><li>・ 親から逃げるため学校を辞めざるを得なかった</li></ul></li></ul>

# 【困難を抱える若者】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

これまでの経験や  
困りごと

保護後の  
困りごと

- ✓ <親からの心理的支配>
  - ・ 家から離れても思い出す
  - ・ どこかで偶然会ってしまったらという不安
  - ・ 親の車と同じ車種の車を見ると怖い
- ✓ <事務的なこと、契約関係>
  - ・ 役所間でも情報共有がスムーズでないことがあり不安だった
  - ・ 進学したいが、家賃、引っ越し、費用などどうするのか分からない
  - ・ 本人確認書類がない（親が持っている・持ってこられなかった）
  - ・ 母子手帳の内容が分からない（病歴・予防接種歴が分からない）
  - ・ 親が持つ自分名義の通帳があり、資産ありとみなされ生活保護を受けられなかった
  - ・ 親を頼れない背景があると不動産屋に断られることが多い
  - ・ 保証会社を利用するにも親族の緊急連絡先を求められた
  - ・ 入院時の家族同意や身元保証人に困った
- ✓ <その他>
  - ・ 精神面でのサポートがもっとあったら良かった
  - ・ 大学に進学したいが、生活保護を受けていたら行けない。経済面や精神面が厳しく今の生活から抜けられない。
  - ・ 親からされていたことの日記を付けていて、それを持ってきて良かった

# 【困難を抱える若者】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えるにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えるやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

### 伝えやすい環境

#### 伝えやすい人

- ✓ 否定しない人
- ✓ 専門家。例：メンタル面などの専門知識がある人、仕事として話を聴く人（弁護士など）
- ✓ 日常生活に支障をきたさない人（嫌でも翌日顔を合わせる先生は話しにくいことも）
- ✓ 高校の友だちが話しやすかった。茶化さず真剣に聴いてくれた。
- ✓ 口が軽い人には言えない。人を選ぶ。友だち→親→自分の親 と知られる怖さ
- ✓ オーバーリアクションの人、大変さにばかりフォーカスする人は苦手。普通にしてほしい
- ✓ カジュアルな服装の方が良い
- ✓ 年代：親と近い年代の人は話しにくい、年代の近い人が話しやすい、年が離れていてもタメ語を使えると話しやすい
- ✓ 性別：同性が良い（女性多数回答）、どちらでも良い（男性回答）
- ✓ 同じ経験をした仲間がいると話しやすい（今回のような）

#### 伝えやすい環境

- ✓ 1対1：話しやすい、キツイ（どちらの意見もあり、人それぞれ）
- ✓ 対面であれば、相手は正面よりは斜めや横にいる方が話しやすい
- ✓ カフェは話しやすい（周りの人も話しているから。シーンとした場所よりは良い）
- ✓ 日常の中での声を聴いてほしい。特別な場（面談、カウンセリング）は周りの目が気になる
- ✓ 何回も同じことを聴かれるのは嫌
- ✓ メモしながら聴いてもらうのが良かった（何を話したか忘れてしまうから）
- ✓ 食べながらなど、何かをしながらの方が話しやすい
- ✓ 声をあげたい子があげるのではなく、みんなの中にたまたま自分もいるという状況の方が良い
- ✓ 「自由に話してください」より、カテゴリーにテーマが分かれている方が話しやすい
- ✓ 話すタイミングを自分で決められる、待ってもらえる

# 【困難を抱える若者】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

伝えやすい環境	伝えやすい方法	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 最初は文字の方が気が楽かも</li><li>✓ 今となっては対面でも話せるようになったが、何も知らない家を出る前など、当時であれば文字の方が伝えやすかったと思う</li></ul>
	伝えやすい仕組み	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 関連する知識や情報が欲しい</li><li>✓ 声を聴いただけで終わらないでほしい。話したことがどうなるかの説明などが大事</li><li>✓ 話したことを取り消せることも大事</li></ul>
その他の意見、思い	その他、感想等	<ul style="list-style-type: none"><li>✓ 選択肢を教えてほしい</li><li>✓ 知らないことが沢山ある。知識は大事。自分が困った分、他の人に同じ経験してほしいし、そのためには協力したい。自分自身、もっと前から知っていたら…と思う。幼い頃から知らせてほしい。逃げられる場所があるとは聞いてはいたが、身近ではない。こどもは大人がいないと逃げられない</li><li>✓ 思っていたことを周りのみんなも言ってくれた。将来自分も居場所づくりをしたいと思った</li><li>✓ 虐待について学校で学ぶ機会があった気もするが、他のテーマとひとまとめにされていて内容が薄まった。虐待専門の時間として教えてほしい。現実味、実感を持てるような、これって自分のこと？と思えるような時間にしてほしかった</li><li>✓ 自分が置かれている環境が普通じゃないと気付ける機会、「どんな理由があっても叩かれてはいけない」ということを知れる機会を</li><li>✓ 自分の家が普通と思っていた。自分が悪くて大人が正しいと思っていたから、相談するという認識にならなかった</li></ul>

# 01

## 実施結果

- 1 個別に出向いて意見を聴く取組について
  - 1-1 不登校のこども
  - 1-2 児童養護施設で生活するこども
  - 1-3 児童相談所一時保護所で生活するこども
  - 1-4 困難を抱える若者
  - 1-5 児童館を利用するこども
  
- 2 内閣府ユース・ラウンド・テーブルについて

# 【児童館を利用することも】モデル事業の実施概要

---

## ➤ 実施方法：

こどもの居場所づくりに関する調査研究検討委員会

([https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo\\_ibasho\\_iinkai/index.html](https://www.cas.go.jp/jp/seisaku/kodomo_ibasho_iinkai/index.html)) における、こども・若者を対象とした居場所づくりに関するヒアリングに併せて実施（グループインタビュー）。

## ➤ 対象者／人数：

- ① 中学生 1 名、高校生 3 名、施設利用経験のある若者（20代前半） 2 名（男性 5 名、女性 1 名）
- ② 小学生 5 名、中学生 2 名、大学生（OB・OG） 1 名

## ➤ 実施場所：

- ① 関東近郊の主に中高生が利用する児童館
- ② 関西近郊の主に小学生が利用する児童館

## ➤ 実施日時：

- ① 2022年11月19日（土）
- ② 2022年12月10日（土）

# 【児童館を利用することも】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

### 気持ちを伝える ことについて

- ✓ 授業や家庭で自分や相手の気持ちを伝える経験を積んできたので、学校や同世代が集まるインターネット空間で「現在の社会」についてなど話をする事ができている
- ✓ 人見知りで、意見を言うのは恥ずかしい
- ✓ 改めて意見を言うような場所はない
- ✓ 生徒会に所属しており、意見箱を置くなどして、自分の意見を出す・聴くことには慣れている
- ✓ 中高生の頃はあまり自分の意見を言っていなかったが、大人になってから言えるようになった
- ✓ 気が付いたら言っている。これ言わない方が良いな、と思うことでも言ってしまうことがある
- ✓ 中学生の頃はあまり言っていなかったかもしれないけれど、学校の友達に言えないことは児童館に言う、児童館で言えないことは学校の友達に言う、といったようにすみ分けていた
- ✓ 言いたいのに言えなくて気持ちがいっぱいになったときには、身の回りの誰かに言えるのが一番良いが、知らない人やあまり関係の深くない人に言う方が楽・言いやすいこともある。また、気持ちがあふれてしんどくなったときは、ノートとかに書き出してみると気持ちが整理できることもある

### 意見を伝えやすい 仕組みやツール、環 境

- ✓ 意見を言う場が用意されるといい
- ✓ 口では言えないこともあるので、頭の中にある考えを書いて示せるようなものがあればいい
- ✓ この施設にはカウンセラーが来るので、その情報をもっと広報するといい
- ✓ 「なんでも相談して」と言われると、逆に相談したくなくなる
- ✓ 施設のスタッフと雑談しているときに、ぼろっと意見をしているときがある
- ✓ 匿名で意見ができる場を増やしても、あまり意味がないと思う
- ✓ 自分の意見と異なる意見を軽蔑する人が少なくないと思うので、その考え方を変えたほうがいい
- ✓ 人と違う意見を言う人に対して、尊重、尊敬する人を増やしたほうがいい
- ✓ なし。例：要望を伝えたいと思うことがない、言おうという気持ちもなかったためツールは思い浮かばない



# 02

## 実施概要・実施結果

- 1 個別に出向いて意見を聴く取組について
  - 1-1 不登校のこども
  - 1-2 児童養護施設で生活するこども
  - 1-3 児童相談所一時保護所で生活するこども
  - 1-4 困難を抱える若者
  - 1-5 児童館を利用するこども
  
- 2 内閣府ユース・ラウンド・テーブルについて

# 【内閣府ユース・ラウンド・テーブル】実施概要

---

## ➤ ユース・ラウンド・テーブル：

内閣府では、こども・若者に関する施策をより充実させるとともに、こども・若者の社会参加意識を高めるため、小学校5年生から20代を対象に「ユース政策モニター」を公募し、社会の様々な課題についての意見を募っている。

「ユース・ラウンド・テーブル」は、ユース政策モニターを対象に、政策や社会課題についての意見交換、対話を行うものであり、本稿では、内閣官房こども家庭庁設立準備室が提起したテーマについて意見交換を実施した結果を報告する。

## ➤ 対象者：

ユース政策モニター：27名

(小学生4名、中学生9名、高校生7名、大学生・大学院生2名、正社員・正職員3名、専業主婦(夫)・家事手伝い1名、その他1名) ※年代ごとにグループ分け(1グループ4～5名)

## ➤ 実施日時／実施場所：

2022年11月19日(土)14:00～16:00／オンライン開催

## ➤ ヒアリングテーマ：

※こどもの居場所、こどもの意見について取り上げた。本稿では、「こどもの意見について」の実施結果を報告する。

○こどもの意見について

- ・ふだん、どのようなツールから情報を得ているか
- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。できている場合、どのように伝えているか
- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えるに感じるときについて
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いか

## ➤ 詳細：

[令和4年度 第5回ユース・ラウンド・テーブル実施結果について \(cao.go.jp\)](https://cao.go.jp)

# 【内閣府ユース・ラウンド・テーブル】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

ふだん、どのような  
ツールから情報を  
得ているか

- ✓ テレビ：ニュース番組、テレビ（話半分に捉えている）
- ✓ 新聞：新聞、中高生新聞
- ✓ インターネット：Yahoo!ニュース、Google、LINEニュース
  - ・ インスタや Twitter はやっていないので、LINE ニュースを見る。よく見る記事から引っ張ってくれるので、自分が気になる記事が見られる
  - ・ 自分の携帯は持っていないので母の携帯（母のアカウント）でインスタ、LINEニュースを見るほか、テレビで朝の情報番組などを見ている
- ✓ SNS：Twitter、YouTube、Instagram、TikTok、省庁や自治体、議員のアカウント
  - ・ Twitter でニュース アカウントをフォローもしているし、フォローしていなくても流れてくる情報もある
- ✓ 身近な人：友達、保護者、先生、同僚、知人
- ✓ ゲーム：ゲーム内のチャット
- ✓ 調べる：図書館で、辞書、官報、サイト
  - ・ SNSで知った情報を省庁のサイトで調べる
  - ・ NPO等のサイトで支援制度を調べる
- ✓ 学校からの配布物
  - ・ 興味がないこともある
  - ・ 小さいときは一応読んでいた
- ✓ 地域の広報物
  - ・ 街中にある掲示板や公民館の掲示
  - ・ 町内放送（コロナ、迷子、帰宅時間等に気を付けよう、など）
  - ・ 回覧板、町内会広報物（プリント等）
  - ・ 地域施設の張り紙
  - ・ 自治体の広報誌（意外と影響力有）

# 【内閣府ユース・ラウンド・テーブル】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

ふだん、自分の  
気持ちをどのように  
伝えているか

- ✓ 伝えることはできている（小学生4名全員）
  - ＜伝える相手＞
  - ✓ 親、友達、学校の先生、仲のいい塾の先生、知り合い
    - ・ 仲のいい友達や親には直接伝えることができる。学校の先生には言えない
  - ＜伝える手段＞
  - ✓ 対面、手紙やメール等の文面、電話、LINE通話、オンラインアンケート、学校のアンケート（匿名）
    - ・ 自分のこと、悩みなどは匿名の方が言いやすい
    - ・ 文章なら伝えやすい、思っていることをしっかり伝えられる。手紙など
    - ・ たまたま目についたところを書くくらい
  - ＜伝える場＞
    - ・ 学校が意見を言いやすい雰囲気のため、自分の考えを伝えることができている
    - ・ フリースクールでなら意見を言える。でも、ずっとフリースクールにいるわけではない。他の場面は難しい
    - ・ 授業中などの場では言いやすい
    - ・ 新たな人間関係の中では言いやすい
    - ・ 今後も関係性が続く中で自分の悩みなどを話すのは難しい

# 【内閣府ユース・ラウンド・テーブル】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

ふだん、自分の  
気持ちをどのように  
伝えているか

<制度・政策についての意見を伝えることについて>

- ✓ できているかと問われると選挙
- ✓ 道路の危険情報を自治体へ伝えた
- ✓ 政策に関してはなかなか
- ✓ パブコメは敷居が高い
- ✓ このユース・ラウンド・テーブルに参加する前は興味がなかった
- ✓ 知り合いにたまたま議員関係者がいれば、できるかな
- ✓ つながりは感じられない
- ✓ 知り合いや、ロビー活動で議員に近い人に情報を送って、依頼
- ✓ 自分の悩みは言いにくいですが、政策などについては学校のディスカッションなどで言っている。場を与えられれば言いやすい
- ✓ 市議会議員宛に投書したところ、電話で詳細を確認してくれた（中学の公民の授業でルートを知った）
- ✓ 市の子ども会議に参加。市の担当者に意見を伝えることができた。以前はこどもたちでテーマを決められたが、今はテーマが決まっている。こどもたちが気軽に市町村・都道府県の職員に伝えられるとよい
- ✓ 中学生くらいの頃、市長とお話する会に参加した
- ✓ 公民館のプログラムで、学校で言う機会があって言ったが、上に伝えます、で終わった

# 【内閣府ユース・ラウンド・テーブル】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

ふだん、自分の  
気持ちや考えを  
伝えにくいと  
感じる時

- ✓ 伝えにくいと思うときもある（小学生3人の回答）
- ✓ 言ってもな～と思う
- <伝えにくい場面>
- ✓ 親の機嫌が悪い時
- ✓ 他の人が（先生とかに）話していて、無視されているのを見ると自分も無視されるかもと思う
- ✓ 授業中に静かな場면을壊して伝えるのもみんなの時間を壊しているようで、説明に時間がかかりそう
- ✓ 大勢の前で言う
- ✓ 一方的に伝えるのは言いにくい。反応があるほうが良い。対話形式が良い
- <伝えにくい相手、立場>
- ✓ 正面から全否定されると言いづらくなる
- ✓ 相手が安心できない人だと言いづらい
- ✓ 関係性の続く人の中
- ✓ 誰に伝えたらいいかわからないとき
- ✓ 家の近所や他の場所での関係性を壊したくない。立場の違い、上下関係があると言えない
- ✓ 集団生活。中学のクラスでスクールカースト上位の人の話が強く出ると、自分の意見を言いづらい。  
中学生は、保育園・幼稚園から続く複雑な人間関係がある。
- ✓ 先生：担任の先生は良いが、学年主任の先生が来ると、大人の間でも立場の違いがあるのだと感じる。  
校長と担任の違いなど。大人の立場も考えてしまう。大人の上下関係も気にする
- <伝えにくい内容>
- ✓ ネガティブなことは直接言いにくい。匿名、書面など感情が分からない方法が良い
- ✓ 先生に対して学校や先生の嫌なことは言いにくい。ママに言う
- ✓ 自分がよく知らないことへの意見を問われたとき
- <伝えた後の影響>
- ✓ 伝えた意見が相手と違ったり、嫌な思いにさせたりするのではないかとあって、伝えられないことがある
- ✓ 言っても否定されたりきちんと考えてくれるのか分からない、先生の印象が悪くなったりするのではないかとあ

# 【内閣府ユース・ラウンド・テーブル】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

### <気軽さ、気楽さ>

- ✓ 単刀直入にたった一言で伝えられるようにしてほしい
- ✓ 気軽に言えるようにしてほしい
- ✓ 対面は緊張する。文面も書くのがめんどろ
- ✓ 自分のタイミングがいい
- ✓ 知識がなくとも投稿できる。個人情報を入れずに

### <心理的安全性>

- ✓ 何を言っても否定されないような空間
- ✓ 本当に言って大丈夫かの不安があるから、サポートしてくれる人がいること
- ✓ カウンセリングルームで、学校と先生の間に入ってくれる誰かがいると良い
- ✓ 言った事を知られたくないから秘密を守ってくれると良い
- ✓ 匿名がいい
- ✓ 相手の顔を見て言うのでは、上下関係を考えてしまう。アプリとかで誰が言っているか分からないようになれば気楽に送れるし、素直な考えを言える

### <伝える相手>

- ✓ 知り合いじゃない方が簡単に言いやすい（一生に一度しか会わないくらい）
- ✓ 急に言っても聴いてくれる・受け入れてくれる人
- ✓ 学校で配られるパソコンを使って、アプリでカウンセラーと話せると良い。対面だと話しにくいこともある。

### <仕組み>

- ✓ 学校の授業で月1回程度、アンケートに答える時間を設ける
- ✓ 不安定な状況にあるこどもも含めて広く意見を聴ける仕組み
- ✓ 近い考えの人が集まれる仕組み、みんなの意見として伝えられる機会
- ✓ 誰でも来ていい場所をつくって、そこに意見を言う手助けがあるといい

こどもや若者が  
意見を言いやすい  
仕組みやツール、環  
境

# 【内閣府ユース・ラウンド・テーブル】実際のこども・若者の意見

## ➤ ヒアリングテーマ：

- ・ふだん、自分の気持ちや考えを伝えることはできているか。自分の気持ちや考えを伝えにくいと感じることはあるか。
- ・こどもや若者がもっと自分の意見を伝えやすくするためには、どんな仕組みやツール、環境があると良いと思うか。

## 実際のこども・若者の意見（抜粋、概要）

こどもや若者が  
意見を言いやすい  
仕組みやツール、環  
境

### <ツール>

- ✓ 万人に分かりやすい通じやすいツールでない
- ✓ 電話、チャットなど意見を伝える方法が複数あるといい
- ✓ Twitter：「#政府」などを付けて意見を言う、投票機能の活用
- ✓ Instagramのストーリーでのアンケート
- ✓ SNSが使えない場合もあるので、Webアンケートを作ってほしい
- ✓ 学校のタブレットを活用して意見を出す
- ✓ YouTubeに連絡先が書いてあるとよい
- ✓ 目安箱。個人が特定されず意見を挙げやすいかたち。紙でもネットでも。

### <周知>

- ✓ そもそも、どう国や自治体に伝えていいのか分からない。伝えやすい仕組みをつくり周知を図ればいいのか  
・ポスターを人が集まる場所に貼る

### <行政機関の職員について>

- ✓ 学校との連携により、役所の人に直接伝えられると良い。役所の人に来て、説明して、その場でこどもが意見を言い、感想を提出する
- ✓ 今回のように、行政の人にこどもから直接伝える機会があると良い。行政が積極的に話を聴きに行くのが良い
- ✓ どこに言えばいいか分かると良い。こどもたちから行政に声を上げる窓口を1つにして、そこから担当課に振り分けてくれると良い
- ✓ 役所の人には忙しいと思うが、こどもたちの声を聴くことをメインの仕事にする人がいると良い

### <その他>

- ✓ どこに問い合わせればいいのか、交通整理が重要。
- ✓ リアクションがないと、「どうせ言ってもな」と感じてしまう。
- ✓ 聞かれたことが役に立っている認識が重要
- ✓ フィードバックは必須



# 03

実施を通じて得られた考察

3-1 対応者の気づき、課題

# 【不登校のこども】対応者の気づき、課題

対象	気づき・課題
不登校のこども	<p data-bbox="375 279 830 315">&lt;聴く側の姿勢、体制、環境&gt;</p> <ul data-bbox="375 322 2011 936" style="list-style-type: none"><li data-bbox="375 322 2011 451">● こどもたちが普段過ごす場で、職員のファシリテートのもとヒアリングを進めたこと、参加中に喫食できる軽食を用意したことで、こどもたちはリラックスして話げできたようだった。どんなところかよく分からない内閣官房の職員が聴くよりも、信頼関係のある職員が聴く方が、こども達も話しやすかったように感じられた。</li><li data-bbox="375 458 2011 536">● 今回ヒアリングを行ったフリースクールは、意見に対して評価をせず受け止めてくれるところが話しやすさにつながっているようで、改めて、こどもの意見を聴く上では大人の聴く姿勢が大事と感じた。</li><li data-bbox="375 544 2011 622">● 本フリースクールでは、日頃からこどもたちの定例ミーティングが行われており、話し合う経験を日常的に重ねられているため、活発に様々な意見が出てきたものと感じた。</li><li data-bbox="375 629 2011 758">● 「話したくなければ話さなくても良い」という職員からの声かけが最初にあったからこそ参加できたのではと思われるこどももいた。ファシリテーター役の職員も、意見を無理強いすることなく、こどもの反応を見ながら声掛けしていた（この点は、日頃からこどもたちに接し、性格や状況を把握している職員だからこそ、と感じられた）。</li><li data-bbox="375 765 2011 843">● 内閣官房職員はその場で自己紹介をし、話を聴く姿勢に徹したことで、きちんと聴いてもらえたという感想につながったのではないか。</li><li data-bbox="375 851 2011 936">● 参加するがその場で聴くだけで良い、発言を求められないという参加の選択肢も大事かもしれない（参加するが発言しない＝不満とは限らない）。</li></ul> <p data-bbox="375 986 675 1022">&lt;こどもたちの反応&gt;</p> <ul data-bbox="375 1029 2011 1293" style="list-style-type: none"><li data-bbox="375 1029 2011 1108">● こども達は、これまでの生活の中で、大事なことを聴いてもらえなかった・受け止めてもらえなかった体験、意見を言ったことで嫌な思いをした経験をしていることが伝わってきた。</li><li data-bbox="375 1115 1556 1150">● 発言はしないが、表情やうなずきで話題に関心がある様子を示すこどももいた。</li><li data-bbox="375 1158 2011 1293">● こども向けの説明資料：親に渡すと大事そうに持って帰る子がいた。分かりやすさを尋ねたところ、「頑張っているけどまだまだだね」と、ニヤリと笑いながら感想を言ってくれた。どのような表現がこどもに分かりやすいかも、こどもに事前に相談できるようなこどもアドバイザーグループがあると良いと感じた。</li></ul>

## 【児童養護施設で生活することも】対応者の気づき、課題

対象	気づき・課題
児童養護施設で生活することも	<p>&lt;小学生について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● ヒアリング前に一緒に食事をしたり遊んだりしたことで、関係を築くことができた。</li><li>● 「こども家庭庁の説明」が難しかったかもしれない。ポイントのみ説明する、動画を用意するなどしても良かった。</li><li>● 一つひとつのテーマには答えてくれ、言いたいことあるのは分かった。</li><li>● 中学年の子と高学年の子とで、話しやすい場や集中力の持続が異なるようであった。</li><li>● 意見例が書かれたカードを使ったゲームを行った。意見の呼び水になった一方、勝てなくて嫌になる子も見られ、こども同士の関係性への配慮やリラックスとエキサイティングのバランスの確保が必要と分かった。ゲームをしたくない子に別の役割を用意しても良かった。</li><li>● 集中力が切れがちの子、遊びたそうにする子もいたため、予定より早く切り上げて正解だった（こどもの様子に応じて、柔軟な対応が必要）。</li><li>● 抑圧や管理を感じていることが伝わってきた。</li><li>● 自分だけの思いではないところを話してくれた子がいた（ゆっくり時間をとってくれるなら言いたい）。</li><li>● 家族に会いたいという気持ちや立場自体が養護施設ではマイノリティの可能性もある。</li></ul> <p>&lt;高校生世代について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 時間があればもっと言いたかったのではという参加者がいた。発言量の多い子が刺激になったのかもしれない。</li><li>● 人数は今回（3名）を超えと言いくかったかもしれない。こどもたちは言いたいことも言いたくないこともある。</li><li>● 進路選択、施設生活など、テーマごとに意見を聴くべきだったかもしれない。</li><li>● 制度政策というテーマは遠かったのでは。様々な課題を抱えているこどもに政策への意見を求めるのは難しい面もある。日常の思いをどう政策に反映していくのかは聴く側の課題。</li><li>● 進学の問題：経済的な事情など、本人の責任ではないところで諦めなければいけない状況がある。施設や児相と学校とが連携した進路指導や、担当職員による本人が抱える困難さに向き合う関わりがなされると良いのでは。</li><li>● 特別支援学校からの進学は、社会的養護というより教育制度の課題でもあるのではないか。</li></ul>

## 【児童養護施設で生活することも】対応者の気づき、課題

対象	気づき・課題
児童養護施設で生活することも	<p>＜全体＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 職員のいない場、初対面の人と話す場だからこそ聴けた意見も多かったのでは。</li><li>● 大人が聴きたいことだけでなく、こどもが話したいことを丁寧に聴くことが求められる。</li><li>● 聴く側に、こどもの言動（問題行動を含む）の背景を想像、理解できる人がいることが望ましい。</li><li>● こどもの発言の中には虚言や認識の偏りもあったかもしれない。</li><li>● 年長の子が年少の子の声を代弁できると良い。</li><li>● こどもの声を聴くこと、こどもの権利を守ることは大人の負担ではなく、双方を笑顔にする価値ある実践である。</li><li>● 年齢等に応じた時間設定について、検討の必要がある。</li></ul> <p>＜協力施設からのメッセージ：「施設における援助とは」＞</p> <p>「ダメなものをダメと言ってくれる職員しか信用できなかった」（当事者の言葉）</p> <p>子どもからの不満は職員が真正面からぶつからなければ出てこない。</p> <p>「今のままではダメ」と口にすることが本当の愛情であり援助の場合がある。</p> <p>子どもの思いをかなえる事だけが援助ではない</p> <p>「不満」とは援助の結果、という一面があることを理解して欲しい。</p>

## 【児童相談所一時保護所で生活するこども】対応者の気づき、課題

対象	気づき・課題
児童相談所一時保護所で生活するこども	<p>＜児童相談所一時保護所職員より＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 紙芝居などを使って分かりやすく事前説明を行い、話しても話さなくても大丈夫であることなどを丁寧に伝えたところ、聴いてほしいという子が多いた。</li><li>● こどもたちは普段の面接のイメージを持っているため、集団よりも個別でのヒアリングの方が良いと思った。ただし、複数の方が話しやすい子もいるかもしれないことに配慮し、複数人で話すことも選択できるようにした。</li><li>● 話した後は、総じて満足そうにしていた。もっと話したそうにしていた子もいた。 ※すべてのこどもに話し足りないことはなかったか確認し、希望があれば個別に話す時間を再度設けた。</li></ul> <p>＜聴く側の姿勢、体制、環境＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 「聴取」というと構えてしまうこどももいるし、国の人に来るのだと気合いが入るこどももいる。何でも話せるような気楽な雰囲気づくりは大切。</li><li>● パブリックな場で話すことにはハードルがあるこどももいる。一方で、国の施策という大きなテーマにすることで気持ちや考えの抽象化がなされたためか、普段は自分の抱える思いについてなかなか話さないが、今回の取組では自分の考えを話せるようになるこどももいた。</li><li>● こども参画が様々なところで取り上げられているが、大人が期待する正解を求めることになっていないか、大人側の自覚が求められる。</li><li>● フィードバックの結果、発言の公開を希望しないとの意思表示をしたこども、自分の意見が国に届くことを喜ぶこどももいた。意見は聴いて終わりではなく、その後のフィードバックやフォローアップが重要。</li></ul> <p>＜幼児の声＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 遊びの中で自己開示をしてくれる兆しが見えてきた。幼児だからといって意見を言えないわけではない。</li></ul> <p>＜こどもや若者との関係構築＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 時間をかけて関係性を築くことで、よりこどもの気持ちや思いに気付きやすくなる可能性がある。</li></ul>

## 【困難を抱える若者】対応者の気づき、課題

対象	気づき・課題
困難を抱える若者	<p data-bbox="385 272 762 311">&lt;菊池真梨香委員より&gt;</p> <ul data-bbox="385 318 2011 1196" style="list-style-type: none"><li data-bbox="385 318 1694 357">● 時間めいっぱい意見が出て、一つひとつの声を掘り下げるにはとても時間が足りなかった。</li><li data-bbox="385 364 2011 486">● 互いの経験や困りごとについては共感することが多い様子だったが、どんな環境や相手であれば話しやすいかについては人それぞれで逆の意見が出ることもあった。同じ人でも状況によっても話しやすい環境や方法は変わるため、「多様な選択肢」を用意することが大切。</li><li data-bbox="385 494 2001 616">● 話すにも、助けを求めるにも、「知る機会」がなければ、声を発するにも至らない。自分の家が普通、叩かれて普通と思っていた、ということには皆が強く共感していた。家以外で多くの時間を過ごす学校が鍵となるのでは。「命に関わること」「守られる権利」などについてもっと触れられていく必要があるのでは。</li><li data-bbox="385 624 2011 746">● 学校で配られる相談先が書かれたカードも、親にスマホの履歴を見られる、家の電話を使うのが怖い、電話している時に親が来たら、などと考えるととても相談できなかったという声が多くあった。カードに公衆電話の使い方を書いたり、学校に電話相談のための小銭があったら良いかもなどというアイデアも出た。</li><li data-bbox="385 753 2011 841">● 聴き手に関してとても大事で、話したことがどのように扱われるのか、これからどうなるのかきちんと説明されていることが必要。</li><li data-bbox="385 848 1162 886">● 思ってもみない回答もあり、聴く意義が感じられた。</li><li data-bbox="385 893 1984 932">● 大人が先回りして考えるよりも、経験者の生の声を制度政策に反映し、それを仕組み化していくことが大切。</li><li data-bbox="385 939 2011 1062">● 「命の恐怖」に怯え続け、声を発したらもっとひどいことになるのではと思ひ、ずっと我慢をしているこどもや若者がいる。保護が遅くなればなるほどこどもたちの傷付く期間は長引き、傷付く時間が長くなるほど、リカバリーにも時間がかかる。やりたいことを諦めたり、心の治療や療養専念しなければならない事態にもつながっている。</li><li data-bbox="385 1069 1974 1150">● こどもや若者の声に、社会がもっと早くに気付くことができれば、こどもたちが声をあげるべきと気付けるヒントがもっとあれば、変わる人生もたくさんあるのでは。</li><li data-bbox="385 1158 1375 1196">● 他の子には自分と同じ経験をしてほしくないと話す参加者がいた。</li></ul>

## 【困難を抱える若者】対応者の気づき、課題

対象	気づき・課題
困難を抱える若者	<p>＜対応者の気づき＞</p> <ul style="list-style-type: none"><li>● 日ごろから信頼関係ができていた菊池委員がファシリテートを担当したことで、参加者もかなり話しやすかったように思えた。初対面の相手ではこれほど語ってはもらえなかったかもしれない。</li><li>● 同じ立場・境遇の人が複数いたのも話しやすさに寄与していたように感じた。緊張していたり、集中が続かなそうにしていた人も、周囲の発言に引っ張られて意見を言うという様子も見られた。</li><li>● 「どんな環境や方法なら子ども・若者は意見を伝えやすいか」に関連する諸々の質問については、政策決定の観点というよりは、「日常的な相談のしやすさ」についての回答に寄っていたように感じた。特定政策の当事者に意見を聴く場合には後者が有効だが、政策決定全般についても声をあげにくい子どもや若者の意見を含む多様な声を拾い上げるための方策については、さらなる検討が必要だろう。</li><li>● 「今日この場にいるのは参加できた人、しかも4人だけ。これで「子ども・若者はこう考えているんだ」と思わないでほしい」と話す参加者がいた。代表性の担保については参加者自身も問題意識を持っており、聴く側としてもしっかり考えなければいけないと改めて痛感した。</li></ul>

## 【児童館を利用することも】対応者の気づき、課題

対象	気づき・課題
児童館を利用する 子ども	<ul style="list-style-type: none"><li>● 意見や考えはあるがそれを表明する機会に乏しい子ども・若者の存在が多くあることが示唆された。意見表明の意欲や政策への関心が低い子どもを含め、多様な立場や状況のこどもの声を聴く仕組みや日常的に意見表明ができる場、こどもが意見を表明したいと思える雰囲気づくりが重要といえる。</li><li>● 「要望を伝えたいと思わない」、「思い浮かばない」といった声が多く聞かれたことは、特徴の一つ。一方で、自分の意見と異なる意見を尊重することの重要性を指摘する意見も複数あり、このようなこどもたちがあえて意見を言おうという気持ちになるには工夫が必要では。</li><li>● 居場所づくりに関するヒアリングに併せて実施したため、ヒアリング時間が長くなり、こどもの疲れや集中切れを受け早めに切り上げた回があった。大人の都合ではなくこども主体のヒアリングとするためには、こどもが話しやすい環境づくりについて再考する必要がある。</li></ul>